

2017年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー  
参加者アンケート  
参加者感想文

# 2017年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

## 青 柳 久 子(連合・連帯活動局)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

・CSAの活動を実際に見て、成果や現地への影響を肌で感じる事ができたこと。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・訪問した小学校の子どもたちや先生、高校生や卒業生の純真な笑顔。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・全ての訪問先で歓迎と感謝の気持ちをいただき、CSAの長きにわたる支援活動が非常に高い評価を受けていると感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・小学校2校の訪問が最初の日程に入っていたので、翌日、教育スポーツ省を訪問した際の説明が非常に分かりやすかった。  
・臨機応変にスケジュールの調整をしていただいたので、訪問先での理解も深まり有効な交流ができた。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・CSAが携わっている多くの訪問先で感謝の言葉を聞け、CSAが、地道な活動を続け、大きな成果をあげていることを実感した。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・まだ中古衣類が不足しており、学校もまだまだ不足していることが分かった。とくに学校は建てるだけでなく、その維持管理、補修費もCSAが全て負担するという実態がある。今後は、この活動を知ってもらい、支援の拡大につながる広報活動が大切だと思う。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・多くの組合員にCSAの活動を知ってもらうことが必要だと思う。特に冬物と男性の衣類が不足している。イメージ的には暖かい国で冬物はいらないのではないかと考えていたが、北部の地域はとても寒く、冬の衣類が必要とすることが分かった。なるべく多くの組合員に現地に行ってもらい、現実を知ってもらうことで活動の意義を理解してもらいたい。そのことをその周りの組合員に伝えていくことができれば、活動の輪が広がると思う。自分で感じたこと、知り得た情報を積極的に組織内外にアピールすることが大切だと思う。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

・継続して実施すべきだと思います。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・メンバーと毎日行動を共にすることで、日々親交が深まっていったと思う。また、構成組織や単組の担当者の方々から日頃の地道な活動をお聞きし、そのご苦勞がよく分かった。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・日替わりでの役割分担は良かったと思う。  
・名頭菌団長と吉野副団長のリード、そして山岡事務局長の的確なアドバイスがあり、とてもチームワークのとれた運営だったと思う。  
・毎日の反省会での一言感想は、皆さんの熱い思いが伝わり、「明日も頑張ろう！」という気持ちが奮い立ち、とても良かった。

## 中 村 健 志(UAゼンセン・三越伊勢丹労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

・全てにおいて貴重な経験でした。自分の組合が行っていた中古衣類の回収が、実際に現地でのどのような形で運用され、またどのような方々の手に渡っているのかを直接見ることができたのは、実際に参加しないとわからなかったことだと思います。  
・その他にも、CSAの活動によって支援を受けている高校生や卒寮生が、その事を忘れずに意識し、ラオスの発展の為に努力し続けていると知ったことは非常に良い経験となりました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・前述の通りに、ラオスのサンティパー寮の卒寮生と交流できたことと、実際の寮に行き、寮生の方々と交流し、その意識の高さを知ることができたことです。卒寮生達との交流の際には、その優秀さや能力の高さに驚かされましたが、それ以上に卒寮生達が今までの支援の事を決して忘れず、感謝の気持ちを持ち、それを胸に母国の発展の為に努力し続けているということを知った時は、CSAの活動の重要さと継続の必要を強く感じました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・今回訪問させていた省庁や倉庫で実際に運用をいただいているスタッフの方のお話を聞いて感じたのは、CSAの支援は非常に重要で、かつその事に対する感謝の気持ちを忘れずにいてくれると強く感じました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・今回は非常に流れが良く、それぞれの訪問先に向かう際にはそれまで学んだ事や体験したことが繋がっていて、理解が深まって臨むことができたと思います。
- ・日程や時間の都合上、非常に難しいということは承知の上なのですが、タイはバンコク以外の地方(実際に救援衣類が送られている地域)も視察ができればありがたいです。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・恥ずかしながら、今回のツアーに参加が決まってから、初めて実情を知ったのですが、実際に参加をしてみて、現地の方々との交流をして、今までのCSAの活動が非常に大きなものだったと肌で感じました。前述の卒業生や寮生達も、「CSAの支援がなければ自分達はこうして今ここにいることができなかった」と言っていた通り、彼らの様な国を支える人材を支援できたことは、本当に大きな意味を持つ活動だと思います。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・今回も様々なところから更なる支援を望む声がありましたが、現在も非常に限られた予算の中で様々な運用をしている旨も同時に知ることとなりました。また、今回の視察でラオスの教育省と保健省との提携を結んだことも考慮し、現地の中での活動の強化ができれば良いと思います。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・今回の様に直接現地に赴いた組合員が、直接各団体での広報を広げていくのはもちろんですが、せっかくこのような貴重な経験をしてきたチーム同士で何かできることを広げていく必要はあると思います。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・これからも続けるべきだと思います。今回もそれまで同様に現地に赴いた人数は少ないかもしれませんが、やはり現地でしか学べないことや感じられないことは非常にたくさんあったと思います。そういった事を所属の組合・団体に伝え、継続的に活動や支援を続けていく為にも、定期的に現地の声や状況を直接見て伝えていく必要はあると思います。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・今回は様々な所属の方がいらしたので、訪問先ではもちろんの事、移動中や自由時間などの時にも様々なお話を聞くことができたので、自分にとってはかけがえのない経験となりました。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・CSAの山岡さんを始め、団長・副団長が中心となってチームの指揮を執っていたので、非常に纏まった行動が取れたと思います。また、事前に役割分担をしていただいたため、準備をもって今回のツアーに参加できたことはありがたかったです。

## 名 頭 菌 由 希 雄(UAゼンセン・レナウン労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・ 現地の衣類保管倉庫視察や救援衣類引渡し式に参加し、貧困で衣類を必要としている方々へ確実に届いている事と、関係各所から大変感謝されている事を確認出来た。
- ・ ラオス国民の穏やかで、心豊かな国民性を感じられたこと。
- ・ 朝から晩まで参加者メンバーと共に行動し、助け合い・学び合い・お互いの考えを語り合えた事が一生の思い出になり、お互いの絆が出来ました。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ CSAが支援している高校生寮生徒・卒寮生の多くから、「教育を受けるチャンスを与えられて非常に感謝しています。」という感謝の言葉を聞けました。彼らは志が高く、ラオス国の発展と各々の夢に向けて歩んでいる姿勢に胸を打たれました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ 全ての訪問先で歓迎され、CSAの支援活動を高く評価していると感じました。また、今後の支援継続を強く望んでいました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・ 今回の日程は、非常に良かったと思います。関係省庁へ訪問する前に小学校訪問・視察を実施したこと。支援高校生寮訪問前に卒寮生との交流を実施した事です。参加メンバーが事前に準備してから臨めたと思います。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・ 素晴らしい活動だと感じます。CSAを支援する各団体組織の代表者がメンバーとなり、実際に現地訪問・視察して自分達の活動状況を把握できました。今後は参加メンバーは勿論のこと、CSAの活動を各組織に幅広く浸透させることが必要だと感じました。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・ 今後もラオス・タイを中心に、福祉活動として「救援衣類を送る運動」、教育支援として「小学校建設・補修、高校生支援事業」を継続し、健全な経済社会開発に協力する事だと思います。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・ 各産別・企業に対してCSAの支援活動の理解を浸透させ、現在の支援団体・支援者の枠を超えた取り組みも必要だと感じます。
- ・ SNS等、情報発信（広報）が必要に感じます。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

・今後、変化していく支援国のニーズに応えながら、支援継続すべきだと思います。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・他産別の方々との交流は新鮮でした。それぞれの組織の考え方や支援方法を聞くことができ非常に得るものが多かったです。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・WST参加メンバーが主体となり、ツアー日程の確認・訪問先での役割分担をしっかりと事前打合せを実施し、毎日の振り返りを発表するなど、多くの気付きを得られたと思います。

## 泉 利 雄(UAゼンセン・アンダーツリー東京ユニオン)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

・タイ、ラオスの現地を実際目で実情を確認出来たことで、CSAの活動の意義、目的が十分理解出来たことです。また、現地の中古衣類倉庫やコンケオ村小学校でカスユニオン、クラレ労働組合、とりせん労働組合の中古衣類の段ボールを確認することが出来たことです。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・サンティパーブ高校CSA寮生が何故、頑張って勉強するのかと聞かれた時に、自分が頑張って勉強して、少しでも貧しい家族を助けたいと答えたことが、強く印象に残りました。また、バーシーセレモニーで、寮生全員から祈りの言葉を唱えながらスーフアン（ミサンガ）を腕に巻いてくれたとき、目頭に熱いものを感じました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・現地で私たちを歓迎する雰囲気から、大変高い評価を受けていると感じました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・綿密なスケジュールでしたが、訪問する順番もちょうど良かったかと思います。ラオスにおいては、十分な時間もあり、現地の小学校から政府の関係省庁まで一連の流れが学べる一方、タイにおいては時間があまりなく、中古衣類が実際に届けられている現地も見れたら尚、良いと感じました。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・中古衣類輸送以外にも小学校の建設支援や各関係省との連携など、幅広く活動されていることを知り、素晴らしいと感じました。

2) CSAは今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・今回の訪問の中で、現地の方々よりCSAの活動に感謝をいただく一方で、新たな課題も見えてきたかと思います。やれる範囲はあると思いますが、新たな支援の方法も模索することも大切かと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・幅広い情報宣伝活動が必要であると思います。タイの中古衣類倉庫で現地のDVDを鑑賞させていただきましたが、このようなDVDを見ていただくことが効果的かと思います。また、WSTに参加する前の事前学習は大事だと感じました。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・今回参加された団員の皆様の感想や、私の感想も含め、とても充実した8日間だったと思います。出来ることならば、続けた方がよいかと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・1日を終えた後の、部屋飲みにおいて、大変有意義なお話を伺うことが出来たことが、大きな財産となりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・名頭菌団長を始め、吉野副団長の強いリーダーシップの下、各団員も責任をもって役割を果たしていたと思います。特に小学校や高校生寮の交流については一体感があったと思います。

## 浅山 哲也(UAゼンセン・教育・社会運動局)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・CSAの活動について実際自分の目で見る事ができたこと
- ・素晴らしい団員にめぐり合えたこと
- ・ラオス・タイの国の事情が知れたこと

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・高校生寮の学生に触れ、CSAの支援によって自分たちが学校に通えていることにとても感謝している姿をみたこと

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・現地通訳のフンペンさんやエアさんをはじめ、ラオスの教育スポーツ省・保険省、タイ保健省、倉庫管理者にいたるまで、すべてがCSAへの支援活動に、感謝の念でいっぱいであった

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・予定していたスケジュールは臨機応変な事務局の対応もあり、すべて訪問できた
- ・訪問先については、小学校の場所によって現地での活動時間が読めないこともあるのかと少し思われた
- ・小学校の訪問先がラオスのルアンプラバン県にあれば、スケジュールにも今後少し変化がでてくる可能性を感じた

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・CSAの33次中古衣類の支援が、国と国をつなぐ大きな役割を担っていると感じた。
- ・特にラオスは、隣国が大きな国に囲まれていることもあり、謙虚に生活を行っているように思われる。経済発展においてまだまだ遅れが出ていることも事実であり、国の発展にむけて、CSAの支援活動は着実に成果を出してきていることに感銘した。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・CSA中古衣類の支援および小学校建設・補修、高校生支援は継続していくべきだと感じた。
- ・また、ラオス・タイにおける教育の格差問題に対して、前進を促すために、何らかの形で支援していけたら…と思った。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・現在取り組んでいる連合の仲間、各産別内で、CSAの活動に対する理解を深めていく必要があると思われる。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・現地のカウンターパートや現地の学生に触れ、継続していく必要性を感じました。また、参加団員との交流やその中で生まれる団結は、最高でした。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・得るところばかりであり、ひとつの産別組織で行うことではなく、連合（労働者全体）で支援活動を盛り上げていける可能性を感じた。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・チームに団長・副団長を決めて一つの団を作って、その中で役割分担を持たせるやり方はとてもよかったと思う。あまりにもすばらしいメンバーに出会えたこと感謝申し上げます。



## 和田 諭(基幹労連・三菱重工労組)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・自分たちが送った衣類やお金が、現地で役に立っていることを直接感じる事ができたこと。
- ・また、日本における自分たちの環境との差を感じ、ボランティア等を通じた支援の必要性や重要性を感じる事ができたこと。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・子どもたちの笑顔。(安心して学校に通うことができるからこそ、皆で学び、皆で遊ぶことができるという印象を持った)
- ・高校生寮の方々の強い志、夢。(寮に入れたからこそ、夢を切り拓くことができたという印象を持った)

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・現在の政府、関係省庁では困難な部分を実現してくれている有難い存在であると感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・途中、休憩時間が長いところがあったため、その時間を利用して、タイの衣類支援を必要としているところを視察できればよかった。
- ・タイはビルが立ち並ぶバンコクのみでの訪問であったため、支援が必要であることをもっと体感できればよかった。
- ・タイ空港での事前学習については、長時間移動で疲れ、また乗り継ぎ方式変更により時間がとられることから、できれば団結式のタイミングで済ませた方がよいと感じた。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・継続して活動し、学校や寮の建設、衣類支援等を通じて、現地に大きく貢献していることが実感できました。参加者以外の方々にも現地の状況、支援の必要性も交えて、更に伝えていくことができれば、もっと支援の和が広がっていくのではと思います。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・海外輸送に係る法的な制約、管理運用面の課題等があると思いますが、どうしたら現地のニーズにもっと応えられるかという点を検討する等、柔軟な姿勢も必要と思います。
- ・また、資金・物資のみならず、現地での補修技術等の伝承等ができれば、長期的には資金を他の支援に回すことができるのではと思います。
- ・そして、支援の内容・対象の濃淡についても、都度検討が必要と思います。(特にラオスは衣類等の支援がまだ不足していると感じました)

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・前記の内容と一部重複しますが、さまざまな産別・業種の組織が支援しているため、資金面のみならず、そのネットワークを駆使した技術伝承や必要物資（補修機材等を含む）の支援を検討していくことも有効ではないかと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・続けた方がよいと思います。
- ・続けるにあたっては、前記の通り、支援の内容・対象の濃淡を都度検討していく必要があると思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・大変有意義な交流を図ることができました。
- ・産別をこえて、これだけの間色々な情報交換をし、色々と議論できる機会は大変貴重でした。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・メンバーに恵まれたことが大きいですが、チームで色々と企画検討に向けて議論を交わすことで、一体感が高まったため、良かったと思います。（団長・副団長には負担がかかってしまいましたが）
- ・また、企画（小学生との交流等）に際しては、現地での時間配分や子どもたちの志向性や全体の雰囲気等が分からないため、もう少しアドバイスをして頂けると企画時の戸惑いが軽減できたと思います。

**吉野雅彦(基幹労連・IH労働組合連合会)**

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・CSAの活動が、いかに現地で必要とされているかを実感出来たこと
- ・ラオスと日本の深い結びつきを知ることが出来たこと
- ・他産別の方々と協力して、全ての訪問先で充実した対話・交流が図れたこと

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ラオスのインフラ／教育の未整備状況を目の当たりにしたこと
- ・CSA寮の卒寮生／在校生との交流で、皆が将来の夢に向かって勤勉であったこと
- ・CSAの支援実績に対し、学校や政府機関関係者から心より感謝して頂いたこと

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ラオス、タイの両国とも訪問先の代表者挨拶では感謝の言葉を丁寧に頂いたことから、高い尊敬と感謝の念を感じる事が出来ました。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・ラオスでは初めに2か所の小学校訪問、CSA寮の卒業生との交流をすることが出来た事から、支援の内容や成果を把握してから関係省庁・大使館を訪問する流れとなり、より良い意見交換をすることが出来ました。来年以降もこの流れで日程を組んで頂きたいです。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・ここまで政府機関に認知されており、また現地でも必要不可欠な活動であることから、我々の事情ではもはや絶やす事の出来ない活動であると感じました。
- ・CSAの活動は資金・衣類の寄付のみならず、対象国を支える人材育成にも深く関与していることを強く感じました。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・日本側では支援組織・法人会員／個人会員の拡充を図る取り組みが必要です。
- ・ラオス・タイ側では、現地のニーズをCSAの窓口をお願いしている方に把握して頂くことで、現状の支援量で最大の効果を生み出すことにつながります。
- ・将来的には教育レベルの底上げにつながる活動（教師の育成支援）に転換していければと思います。

#### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・連合から産別・単組への法人会員入会への依頼、衣類送付への協力依頼の強化
- ・法人会員である単組については、個人会員への入会を組合員へ促す検討
- ・そのための器材（ポスター・ニュース・DVD）の配布など広報活動の拡充

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ぜひ継続して下さい。単組でもご協力させて頂いていましたが、やはり現地を見ると活動の意義を深く知ることが出来ますし、更なる協力を求める「協力員」にも成り得ます。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・明確な役割分担の中、全ての訪問先で満足する活動を行うことが出来たと自負しております。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・名頭菌団長を中心に、日々の徹底した役割分担に基づいて規律ある、主体性を持って行動することが出来ました。
- ・日々の反省会を今年から行いましたが、それにより記憶が明確となり帰国後のレポート作成時にも困ることがありませんでした。来年からも継続をお願いします。

## 奥 信 明 繁(基幹労連・JFEスチール福山労働組合)

### 1. 参加して感じたことは何ですか

#### 1) 良かったこと

- ・自分たちの支援がどのように活用されているのかを知ることができ、取り組みの必要性を肌で感じられたことが、一番良かった点です。

#### 2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・現地の方々が自分たちの支援活動に感謝をしてくれている光景をみて、活動の必要性を強く感じた。
- ・同じ国のなかでも貧富の差が激しく、継続して支援活動を展開することが必要であり、その必要性を伝えることが現地を訪問したツアー参加者の責任であると強く感じました。

#### 3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・衣類の引き渡し式や各行政機関での意見交換を通じて、CSAのこれまでの活動で築き上げられた信頼関係を感じました。
- ・各種訪問先において、子どもたちや学校の先生がCSAの訪問を歓迎してくれている状況を見て、これまでの活動が高く評価されていると感じた。

#### 4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・全体的なスケジュールは問題なく、特に以下の点は、訪問先で状況を視察した後に、意見交換ができて大変良かったと思います。
  - ターディンデンタイ村小学校(19番目校)やコンケオ村小学校(3番目校)を訪問し、子どもたちの学校生活や各小学校が抱える課題などを聞かせてもらい、ラオス教育スポーツ省初等および中等教育局で意見交換ができたこと
  - CSA高校生寮卒業生との交流で卒業後の進路や将来の夢を聞かせてもらい、サンティパープ高校CSA寮を訪問できたこと。

### 2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

#### 1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・本ツアーに参加して、現地の状況を見れば、支援の必要性を感じる方が増え、活動に賛同する組織も増えると感じました。

#### 2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・現在の活動を継続することがまずは必要と考えます。
- ・その上で、今回のツアーで小学校を訪問する際、道路の整備が十分に行き届いていない状況であり、高校までの通学に時間を要することや大雨などで通行ができないなどの課題もあるため、サンティパープ高校CSA寮のような支援を拡大することも今後は必要と感じました。

### 3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・CSAの活動をより多くの組合員に知ってもらうことが必要であり、より多くの組織に本ツアーに参加することが効果的と考えます。
- ・協力の輪を拡大するには各産別や企連の「愛のキャンパ」担当者の方にツアーへ参加してもらい、訪問先の実態を知り、自分たちの組織に展開していく取り組みも必要と考えます。

### 3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

#### 1) これからも続けた方がよいですか。

- ・支援の継続を求められている状況であり、今後も続けなければならないと思います。
- ・CSAの活動を継続するためには、活動の必要性をより多くの方が感じることが重要であり、視察は今後も必要と考えます。

#### 2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・様々な情報交換の場面を通じて、他組織の取り組みを知ることができ、自組織との違いなどを勉強することができました。
- ・他産別の方々と労働運動についても、情報交換ができたことは貴重な経験であり、非常に得るものが多かった。

#### 3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・団長、副団長が視察団をまとめてくれたお蔭で、初日から仲間意識が芽生えました。
- ・参加者全員が役割を持つことは、チームの一体感が生まれました。
- ・毎日、朝と夕方にミーティングを行ったことは、役割やスケジュールなどの忘れ防止に繋がりました。



ビエンチャンに着きました



ターディンデンタイ村小学校の連合ロゴ